一所を打開し万所を開く

下條中学校便り No. 9
発行平成28年12月26日

○宮嶋加菜子さんの講演（朝日新聞社社会部記者）（12/14）

本校の卒業生であり、私達の先輩でもある宮嶋さんから『リオオリンピック・パラリンピックから見えてきた日本、そして世界　今、若者に伝えたいこと』という演題でお話をお聞きしました。そのお話の中でリオが世界に伝えたメッセージは「争いはやめよう。多様性がある」「どんなに貧しくても頑張れば夢は叶う」「誰にも心があり、その心から人間の力が生まれる。そこに障害の有無は関係ない」ということ。そして日本が東京オリンピックで何を世界に伝えるかは、「復興五輪（東日本大震災）」、「おもてなし」を基にして、少子高齢化が進み縮小社会を迎える日本に新しい価値観を発信することであると。さらに、記者の仕事を通して生徒の皆さんに伝えたいこととして、①柔軟な心を持つこと②自分とは違うことに向き合う広い心を持つこと③好きな物をたくさん持って、豊かな心を持つことの３つを挙げてくれました。このお話をきっかけに生徒の皆さんの人生が豊かになるために新聞を身近な物として生活の中で活用してほしいという願いを訴えられていました。

＜生徒の感想から＞

今日は、朝日新聞の社会部記者の宮嶋加菜子さんの講演会がありました。東日本大震災、熊本地震、リオオリンピックなどの取材をしてきたとても面白く、興味の持てるお話を聞くことができました。現地に足を運ぶからこそわかる空気、人の喜びや悲しみをお聞きすることができ、良い経験になりました。宮嶋さんは新聞記者という仕事が辛くて何度もやめようと思ったり、北京へ留学したときは孤独感からよく泣いていたそうです。２４時間、いつ、どんなことが起きても現地へ行かなくてはならない社会部の記者はとても大変で苦しい仕事だと思います。それでも続けこられた宮嶋さんの強い意志と仕事に対する大きなやりがいがあったからだと思います。「満蒙開拓のことなどで何か分かり合えることはないだろうか」と自分の中でしっかりとした考えを持ち、北京への留学を実行し、新聞記者という仕事を辛くも楽しんでいる、そんな宮嶋さんがとても格好良かったです。宮嶋さんのように自分が持っている強い意志と能力をしっかり詰め込められるような仕事がしたいです。そのために私がやるべきことはやはり勉強だと思いました。

○書き初め教室（12/14,15）

村内在住の熊谷岩三さんと館林紘子さんにお越し頂き、各クラス２時間ずつ正月の書き初めを習いました。１年生は「将来の夢」、２年生は「新たな目標」３年生は「無限の可能性」です。みんな真剣に練習できました。

＜ 生活記録より＞

熊谷先生に書き初めを教えていただきました。書いてみると久しぶりに書くのでなかなか満足のいくように書けませでした。でも熊谷先生が分かりやすく教えてくださったので、とてもうれしかったです。書き初めをがんばりたいです。

○門松飾り付け（12/19）

下條村の匠の会の皆さんが、中学校の昇降口に門松を飾り付けてくださいました。２ｍ近くの立派な門松です。

地域の皆様のおかげで、子ども達も間近にすばらしい門松に接することができます。子ども達も「いつかは自分たちで」という気持ちになるのではないでしょうか。もうお正月がやってきたように感じられました。ありがとうございました。

○雑巾の寄贈

今年も村の老人クラブ婦人部の皆様より、雑巾を頂きました。手縫いであり、丈夫な一品でありがたく思います。大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。

○意見集会から

※飯田風越高校主催英語スピーチコンテストにおいて英語で発表したスピーチの日本語訳です。

『７月９日』　　大平綾香

忘れられない特別な日が、あなたにはありますか。心に深く残っている出来事はありますか。

これからも決して忘れられないであろう日が、私にはあります。7 月 9 日。それは、中体連県大会(剣道〉の日です。県大会で優勝し、全国大会に出場することが私の夢でした。長年の夢を実現させるため、日々ハードな練習に取り組んできました。県大会当日あまりの緊張に、試合前のアップで、いつも通りの動きが全くできませんでした。「集中!集中!」と心の中で繰り返し自分に言い聞かせました。初戦はかろうじて勝ちましたが、依然として
異様なほどの緊張がありました。第 2 試合が始まりました。「勝つ。絶対に勝つんだ。」しかし、その思いは叶いませんでした。負けたのです。一瞬何が起こったのか認識できませんでした。こらえきれず涙があふれてきました。(それからしばらく普段の生活すらままならない心の状態が続きました)

そんなある日、一通の手紙が届きまし払それは、剣道の強化練習で切磁琢磨し合った友人からの手紙でした。彼女は全国大会に出場したのです。その友達の暖かい言葉は私の心を動かしました。「試合、見ていたよ。あなたが真の剣士であることを私は知っているよ。」これを目にしたとき、また涙があふれました。「剣道を続けてきたこと、そしてあの日は無駄ではなかった。」と思えたのです。剣道のおかげで、新しい出会いや喜びを得てきていたのだと。勝ち負けを超えたところに、その時その瞬間に全力で挑んでいたことに、真の価値があったのだと。

今、支えていただいた全ての人に感謝したい気持ちです。顧問の野村先生、自分の家族、剣道部の仲間達、クラスのみんな、心からありがとうございました。
剣道は自分の人生を変えつつあり、創りつつあります。7 月 9 日という日を、私は決して忘れません。

○＜会長の退任挨拶から－－－佐々木柊斗＞

平成２８年度生徒会が発足して１年が経ちました。１年間があっという間に感じました。この１年、最も力を入れてきたのはスローガン「喜努愛楽」でした。全ての行事を通して１年間かけて達成させようと４月に決めて今日までやってきました。振り返ってみると大きく達成に近づけたのは清明祭だったと思います。準備の段階では、精一杯努力をし、仲間と協力し合ったことで愛情を持って接することができたと思います。本番では会員全員が楽しめて、清明祭成功の喜びを味わうことができました。沢山の笑顔が清明祭期間中に見ることができました。日常生活でもそれは同じです。この目標達成を目指し、会員全員が生徒会活動に参加できました。つまり、会員全員が創り上げた生徒会だったと言えると思います。清明祭も含め、行事を振り返ってみると、会員一人ひとりの努力がなければこうして今を迎えることはできなかったと思います。一人ひとりの生徒会への思いが伝わってきて嬉しかったです。そして、先生方には、時に厳しく時には背中を押して下さり的確なアドバイスもいただきました。本当に感謝しています。会員や先生方の支えがあってこその１年でした。１年間。ありがとうございました。

○お知らせ（生徒会正副会長選出される）

１１／２５に平成２９年度生徒会正副会長立候補者の立会演説会が行われ、選挙も講演会終了後に行われました。投票では投票所入場券を使ったり、役場から投票箱と投票記載台をお借りしたりと一般の選挙と同じ形式で行いました。その結果、次の皆さんが選出されました。

生徒会会長　　仲川 典志さん　（２Ｂ）
生徒会男子副会長　　久保田 渚生さん（２Ａ）
生徒会女子副会長　　幾島 彩瑛さん（２Ｂ）

○これからの予定　1月

５日（木）３学期始業式　　６日（金）３年総合テスト
７日（土）アンサンブルコンテスト南信Ｂ
１２日（木）百人一首大会　　発育測定　２校時
２０日（金）英語検定②
２５日（水）小中合同学習指導研修会
２月１日～３日　前期志願受付

文責　下條中学校
教頭　倉沢成信
TEL　0260-27-1212